

当院で発生した新型コロナウイルス感染症の院内感染について

この度は、当院で発生した院内感染により、多くの患者さんご家族、地域の皆さん、地域の医療機関の皆さんに、大変なご迷惑とご心配をおかけしたことを、心より謝罪いたします。また、亡くなられた方のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

当院はこれまでも院内感染対策に力を入れてきており、新型コロナウイルス感染症の流行が報道され始めた1月半ばには対策本部を立ち上げて、さまざまな対策を取っておりました。特に4月24日に最初の陽性患者さんが判明して以降は、さいたま市保健所の指導も受けながら、感染の拡大防止に努めてまいりました。それにも関わらず、多くの患者さんと職員に感染が拡大してしまったことに、無症状でも強い感染力をもつ、このウイルスの恐ろしさを実感しています。

さいたま市保健所をはじめ、他院の感染管理の専門家にも相談しながら、現在以下のような対策を行っております。

1、救急診療について

スタッフは手指消毒や個人防護服を徹底した上で、診療に当たります。必要に応じて胸部CTを撮影し、肺炎を合併している場合には、感染拡大を防止する対策をとった専用の病床に入院して頂き、入院後にPCR検査を実施いたします。

2、入院診療について

スタッフは手指消毒や個人防護服を徹底した上で、診療に当たります。必要に応じて入院前より胸部CT撮影やPCR検査を行い、新型コロナ肺炎の早期発見に努めます。入院中の面会は引き続き禁止とします。

3、外来診療について

病院エントランスを2ヶ所に限定し、すべての患者さんと付き添いの方に体温測定を行います。37度以上の患者さんは専用スペースでお待ちいただき、医師が必要と判断した場合はPCR検査を行います。

4、リハビリテーションについて

リハビリでは患者さんと近距離で行うことが多いため、これまで以上に感染防止に取り組みます。これまでのチーム制から担当制にすることで、一人の療法士が担当する患者さんを減らします。リハビリ時には患者さんにはマスクをしていただき、またリハビリ前後には手指

の消毒をしていただきます。

以上の対策については、地域の感染状況を見ながら継続していきます。

また今後予想される「第2波」が発生した時には、さらに強い防護体制に迅速に移行します。

最後になりますが、今回、私たちに対して、地域の皆さんや一般の方から、連日のように励ましのお手紙や支援物資をいただきました。職員一同、大変勇気付けられました。また地域の医療機関からも、たくさんの暖かいご支援をいただきました。深く感謝するとともに、一刻も早く通常の機能を取り戻して、安心して安全な医療で地域に貢献することで、当院の使命を果たしたいと考えております。何卒、よろしくお願い申し上げます。

2020年5月25日

院長 藤岡 丞